

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
【発行日】令和 4 年 1 月 6 日 (2022.1.6)

【公開番号】特開 2021-28873 (P2021-28873A)  
【公開日】令和 3 年 2 月 25 日 (2021.2.25)  
【年通号数】公開・登録公報 2021-010  
【出願番号】特願 2019-147192 (P2019-147192)  
【国際特許分類】

H 0 1 R 13/655 (2006.01)

H 0 1 R 13/58 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/655

H 0 1 R 13/58

【手続補正書】  
【提出日】令和 3 年 11 月 26 日 (2021.11.26)

【手続補正 1】  
【補正対象書類名】特許請求の範囲  
【補正対象項目名】全文  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ケーブルの端部にコネクタが接続されたケーブル付きコネクタであって、  
電線と、シース部と、前記電線と前記シース部との間に介在された編組部材と、を有し、  
前記編組部材は導電性の線材が編まれてなり、前記編組部材には前記シース部の端末から露出した前記編組部材が前記シース部に向かって折り返されてなる折り返し部が設けられたケーブルと、

前記ケーブルの径方向について、前記折り返し部の内側であって、且つ前記シース部の外面に外嵌された金属製のスリーブと、

前記折り返し部の外面に圧着された状態で前記スリーブとの間で前記折り返し部を挟持するパレルを有する金属製のシールド部材と、

前記シールド部材に覆われたハウジングと、を備え、

前記パレルには、前記ケーブルの軸線方向について前記スリーブの後端部よりも後方の位置に、前記ケーブルの径方向の内方に突出するパレル側突部が形成されており、

前記スリーブの後端部には、前記ケーブルの径方向の外方に突出するスリーブ側突部が形成されているケーブル付きコネクタ。

【請求項 2】

前記スリーブの後端縁の内面には、後方に向かうに従って拡径するテーパ面が形成されている請求項 1 に記載のケーブル付きコネクタ。

【請求項 3】

前記パレル側突部のうち前記ケーブルの径方向内方に突出した突出端縁には、前記パレルが前記折り返し部の外面に圧着された状態で、前記パレル側突部のうち前記ケーブルの径方向の内縁部を逃がす逃がし部が、前記ケーブルの径方向外方に凹状に形成されている請求項 1 または請求項 2 に記載のケーブル付きコネクタ。

【請求項 4】

前記パレルには、前記ケーブルの周方向に間隔を空けて複数の前記パレル側突部が設けられている請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載のケーブル付きコネクタ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本開示は、ケーブルの端部にコネクタが接続されたケーブル付きコネクタであって、電線と、シース部と、前記電線と前記シース部との間に介在された編組部材と、を有し、前記編組部材は導電性の線材が編まれてなり、前記編組部材には前記シース部の末端から露出した前記編組部材が前記シース部に向かって折り返されてなる折り返し部が設けられたケーブルと、前記ケーブルの径方向について、前記折り返し部の内側であって、且つ前記シース部の外面に外嵌された金属製のスリーブと、前記折り返し部の外面に圧着された状態で前記スリーブとの間で前記折り返し部を挟持するバレルを有する金属製のシールド部材と、前記シールド部材に覆われたハウジングと、を備え、前記バレルには、前記ケーブルの軸線方向について前記スリーブの後端部よりも後方の位置に、前記ケーブルの径方向の内方に突出するバレル側突部が形成されており、前記スリーブの後端部には、前記ケーブルの径方向の外方に突出するスリーブ側突部が形成されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

(1) 本開示は、ケーブルの端部にコネクタが接続されたケーブル付きコネクタであって、電線と、シース部と、前記電線と前記シース部との間に介在された編組部材と、を有し、前記編組部材は導電性の線材が編まれてなり、前記編組部材には前記シース部の末端から露出した前記編組部材が前記シース部に向かって折り返されてなる折り返し部が設けられたケーブルと、前記ケーブルの径方向について、前記折り返し部の内側であって、且つ前記シース部の外面に外嵌された金属製のスリーブと、前記折り返し部の外面に圧着された状態で前記スリーブとの間で前記折り返し部を挟持するバレルを有する金属製のシールド部材と、前記シールド部材に覆われたハウジングと、を備え、前記バレルには、前記ケーブルの軸線方向について前記スリーブの後端部よりも後方の位置に、前記ケーブルの径方向の内方に突出するバレル側突部が形成されており、前記スリーブの後端部には、前記ケーブルの径方向の外方に突出するスリーブ側突部が形成されている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

図1に示されるように、ケーブル10の前端部(ケーブル10の軸線方向の前端部)のシース部15は、皮むきされている。これにより、シース部15の末端からは、電線13と、編組部材14と、が露出している。シース部15の末端から露出した編組部材14は、シース部15の末端側に折り返された折り返し部18を有する。換言すると、折り返し部18は、シース部15の前端部から軸線方向の前方に露出した編組部材14が、軸線方向の後方に折り返された形状となっている。なお、本実施形態では、ケーブル10の軸線方向を、前後方向に平行な方向として説明する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【 0 0 2 6 】

[ スリーブ 1 9 ]

図 1 に示されるように、スリーブ 1 9 は金属製であって、円筒状に形成されている。スリーブ 1 9 を構成する金属は、銅、銅合金、アルミニウム、アルミニウム合金等、必要に応じて任意の金属を適宜に選択できる。本実施形態においては銅又は銅合金が用いられている。

## 【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 2 】

[ 実施形態の作用、効果 ]

続いて、本実施形態の作用、効果について説明する。本実施形態は、ケーブル 1 0 の端部にコネクタ 1 1 が接続されたケーブル付きコネクタ 1 2 であって、電線 1 3 と、シース部 1 5 と、電線 1 3 とシース部 1 5 との間に介在された編組部材 1 4 と、を有し、編組部材 1 4 は導電性の線材が編まれてなり、編組部材 1 4 にはシース部 1 5 の端末から露出した編組部材 1 4 がシース部 1 5 に向かって折り返されてなる折り返し部 1 8 が設けられたケーブル 1 0 と、ケーブル 1 0 の径方向について、折り返し部 1 8 の内側であって、且つシース部 1 5 の外面に外嵌された金属製のスリーブ 1 9 と、折り返し部 1 8 の外面に圧着された状態でスリーブ 1 9 との間で折り返し部 1 8 を挟持するバレル 3 0 を有する金属製のシールド部材 4 0 と、シールド部材 4 0 に覆われたハウジング 4 1 と、を備え、バレル 3 0 には、ケーブル 1 0 の軸線方向についてスリーブ 1 9 の後端部よりも後方の位置に、ケーブル 1 0 の径方向の内方に突出するバレル側突部 3 2 が形成されており、スリーブ 1 9 の後端部には、ケーブル 1 0 の径方向の外方に突出するスリーブ側突部 2 0 が形成されている。